

令和7年7月17日

浜田市議会議長 笹 田 卓 様

議員名 芦 谷 英 夫

研 修 受 講 報 告 書

下記のとおり研修を受講したので報告します。

記

- 1、研 修 名 「教育・人づくりによる次代の地方創生
～地域留学を起点とした高校魅力化の挑戦～」

2、受講の目的（市政との関連など）

人口定住は喫緊の課題であり、高校魅力化など具体的な施策が必要であり、若い人の定住化施策の推進について先進例に学び調査研究を行う。

- 3、日 時 令和7年7月5日（土）14時～15時30分

- 4、経 費 JR代 8,140円（浜田～松江往復）
駐車料 800円（浜田駅）

5、研修のポイント・議員活動や市政への反映など

研修内容（所感）で述べるとおり、高校入学生の増加について、浜田市にある資源の活用、行政との連携と支援により具体的な施策を構築する。

- 6、研修内容 別紙のとおり



「教育・人づくりによる次代の地方創生～地域留学を起点とした高校魅力化の挑戦～」

令和7年7月17日

1 日 時 令和7年7月5日（土）14時～15時30分

2 会 場 松江市（松江テルサ）

3 概 要

- ① 隠岐島前高校魅力化で、生徒が行きたい、保護者が行かせたい、地域も活かしたい、教職員も行きたい、と思う「魅力ある学校づくり」を目指して進めてきており、そこには学級減・学校存続の危機から、教育改革・地域創生の好機へ、まち・人づくりの盲点から、まち・人づくりの拠点へと変えた。
- ② どのような生徒を求めどのような教育を行うか、が問われ、地域の課題として既存産業の衰退、若者流出、後継者不足、公共依存などがあり、地域の向かう指針として産業創出、若者定住、継承者育成、自立協働などがあり、仕事がないから帰れないではなく、仕事をつくりに帰る、このような文化創造、価値観の変革が必要である。
- ③ 地域全体が学校、地域人財も先生、地域課題は絶好の教材であり、自然環境、農業・漁業・林業・畜産業、商業・経営、観光、ものづくり、文化・暮らし、歴史・芸能、教育・子育て、福祉、医療、行政・政治、化学・研究などなど地域の資源は無限大にあるが、多くの地域では生かされていない、眠っている、忘れ去られているのが現状。
- ④ 学習環境は、地方の子ども・若者の課題として、関係性の固定化、価値観の同質化、刺激や競争の不足などから、多文化協働力の不足、広い視野・創造性の欠如、チャレンジ精神の不足につながっており、これを自分らしく生きられ、したこともない体験、ステキな人にたくさん出逢える、として「島留学」を推進している。
- ⑤ 島前高校では全国からの地域留学で、異例の生徒増につながり、平成20年まで下がり続けた生徒数が90人であったものが、平成27年には160人までになり、7年度146人が在籍するなど、学校の定員増・教職員の増につながっている。
- ⑥ このような中から、都市部から過疎地へと人の流れが反転し、子どもたちの地域外流出が止まり地元高校への進学率は47%が89%に、若い家族のUIターンで人口の社会増減が反転し-107人が+53人に、年間平均出生数8人は18人に増加している。

4 所 感

- ① このような高校と地域が協働する取り組みは参考となり、これは小中学校、県立大学とも含めた学校側から地域への働きかけになるが、市としてそれを待つことなく、積極的な誘導が必要で、人材も含めた地域資源、行政資源を活用する市の姿勢が問われる。
- ② 地方行政や協働のまちづくりの推進には、小中高、大学も含めた取り組みが重要であり、学校関係の部署だけの対応ではなく、行政にあるあらゆる部門が具体的な小中高大との連携の施策を提案し、地域や市民との交流、連携の関係づくりが重要である。
- ③ 浜田市でも高校生の確保に向けて、寮を整備し28人が入寮、そのほか浜田高校の寮に38人、水産高の寮に28人が入寮するなど入寮者数は増えており、市の政策課題として、入寮者の増、高校入学者を増やす取り組みは重要な施策である。
- ④ 8年度から始まる高校無償化は、県立高校約12万円、私立高校約47万円支給とされ、大都市にある私学の恩恵は大きく、県立高校をかかえる地方や過疎地域では生徒減につながり、地域留学や島留学を進めてきた自治体の打撃は大きく、そもそも地方に反する。